

事例研究報告

特別支援学校小学部児童に対する カードを使用したコミュニケーションの 指導実践

～パニックの軽減を目指す～

児童の実態

○小学部児童 自閉症

○日常生活に関する実態

- 写真で示したスケジュールを使用し、活動することができる。
- 他者への興味も持ち始め、目が合う場面が増えてきた。
- 発語はない。
- 好子(あたりめ, ナッツ等)を励みにし、活動に取り組むことができる。
- 三項関係が成立しつつある。
- 保護者の意向で、放課後等デイサービス等の利用はない。

児童の実態

○拒否や要求に関する実態

- ・【要求】その場で手をパチンと合わせる。
- ・【拒否】走り出す, 自傷, 他害, 寝転ぶ, 泣く。

○パニックの場面や時間

- ・あそびの時間が短いとき。
- ・スケジュールにあそびが2回入っていないとき。
(プレイコーナー⇒あそび)
- ・一人で勉強をするとき。(自立課題)
- ・長引くと, 40分間泣き続けるときがあった。

保護者の願い

「自分の身の周りのことが一人でできるようになってほしい。」

教員の願い

「パニックを起こすことなく、安定して、楽しく学校生活を送ってほしい。」

アドバイザーからの助言

- ①要求のレパートリーを増やす。
→カードを使用して、いくつかの選択肢を選べるようにする。【要求】【休憩したい】【手伝ってほしい】など。
- ②福祉サービスを利用したり、各関係機関との関係を構築したりする。
- ③余暇の楽しみを増やす。
→YouTubeやDVDなどのレパートリーを増やしたり、楽しいことを増やしたりして、楽しい時間を教員と共有する。

助言を受けての見直し

○要求のレパートリーを増やす。

<助言前>

- ①児童が手をパチンと合わせて要求したら対応する。
- ②児童が困っている様子だったら、近付いて支援する。

<助言後>

- ①児童が手をパチンと合わせて要求した場合、教員は無反応とする。
- ②カードを使用した要求行動の指導を始める(PECS:絵カード交換式コミュニケーションシステム)。
- ③児童と教員の距離、児童とコミュニケーションブックの距離を徐々に離し、カードを使用した自発的なコミュニケーション力を高められるようにする。

指導の手続き

【1】カードを使用して，他者に要求を伝える。

〈介入1〉：机上にある写真カードを目の前にいる
教員に手渡して，要求を伝える。

- ①T1は，机上に写真カードを提示し，好子を見せる。
- ②本児が，好子や写真カードに手を伸ばそうとした瞬間，T2
が後ろから写真カードをT1に手渡すようにプロンプトする。
- ③T1は，カードをもらった直後に好子を手渡す。
- ④T2は，徐々にフェードアウトしていく。

好子として機能するもの・活動

あたりめ，ナッツ，歌絵本，タンバリン

指導の手続き

〈介入2〉: 少し離れた場所にいる教員に写真カードを手渡して、要求を伝える(ブックあり)。

- ①T1は、ブックに写真カードを貼り、好子を見せる。
- ②本児が、好子や写真カードに手を伸ばそうとした瞬間、写真カードをブックから外してT1に手渡すようにT2が後ろからプロンプトする。
- ③T1は、カードをもらった1/2秒以内に好子を本児に手渡す。
- ④本児が、近距離でブックからカードを外して手渡すことが確実にになると、本児とT1の距離、本児とブックの距離を徐々に離していく。

好子: あたりめ, ナッツ, タンバリン, おかわり, ホーススイング, ポータブルDVD

指導の手続き

【2】手伝ってほしい場面で、カードを手渡して援助要求をする。

〈介入1〉:シンボルで示した手伝ってくださいカードを教員に手渡して、援助要求をする。

- ①T1は、机上にシンボルで示した「手伝ってくださいカード」を貼る。
- ②本児が、困っている場面が見られたら、T2は後ろから身体的プロンプトにより、T1にカードを手渡すようにする。
- ③T1は、カードに書いてある「〇〇手伝ってください」を読み、手伝う。
- ④本児が、自発的にカードを手渡そうとすると、T2は支援を徐々にフェードアウトする。

指導の手続き

〈介入2〉: 写真で示したカードを教員に手渡して
援助要求をする。

- ①本児が困ると想定される場面（連絡帳をファイルに綴じる、ご褒美の箱を開ける）で、困っている物の写真カードを貼ったブックを本児の半径30cm以内に提示しておく。
- ②本児が、自発的な動きをした瞬間、T2は後ろから身体的プロンプトをして、T1にカードを手渡すようにする。
- ③T1は、カードに書いてある「〇〇手伝ってください」を読み、手伝う。
- ④本児が、自発的にカードを手渡そうとすると、T2は支援を徐々にフェードアウトする。
- ⑤徐々に本児とT1の距離、ブックと本児の距離を離していく。

記録方法と記録

【1】-介入①, 【2】-介入①, ②の指導

『カードを取る』『手を差し出す』『手渡す』
の3項目で指導を行う。

○身体的プロンプト→0点

○部分プロンプト →1点

○プロンプトなし →2点

※6点が5日間続いた場合を達成とする。

指導の成果

【1】カードを使用して、他者に要求を伝えるための指導

〈介入1〉

〈介入2〉



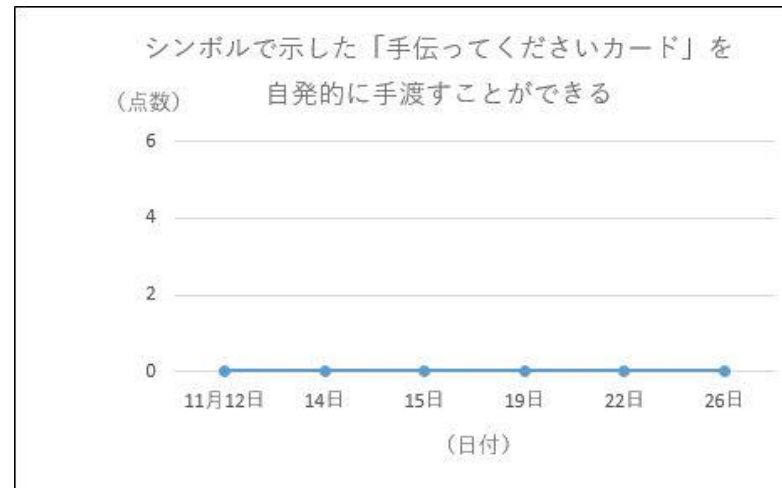
机上有る写真カードを教員に手渡して
要求を伝えるための指導

少し離れた場所にいる教員にカードを
手渡して、要求を伝えるための指導

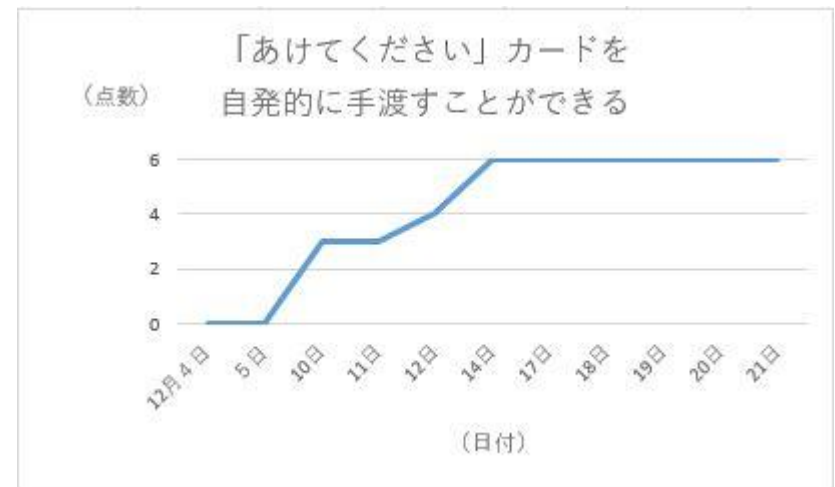
指導の成果

【2】手伝って欲しい場面で、カードを手渡して援助要求するための指導

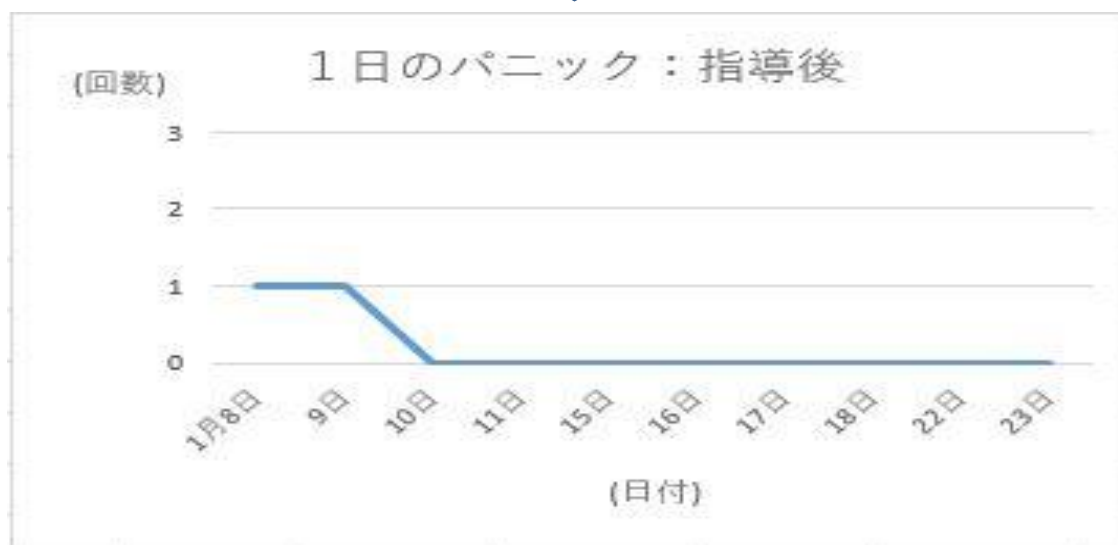
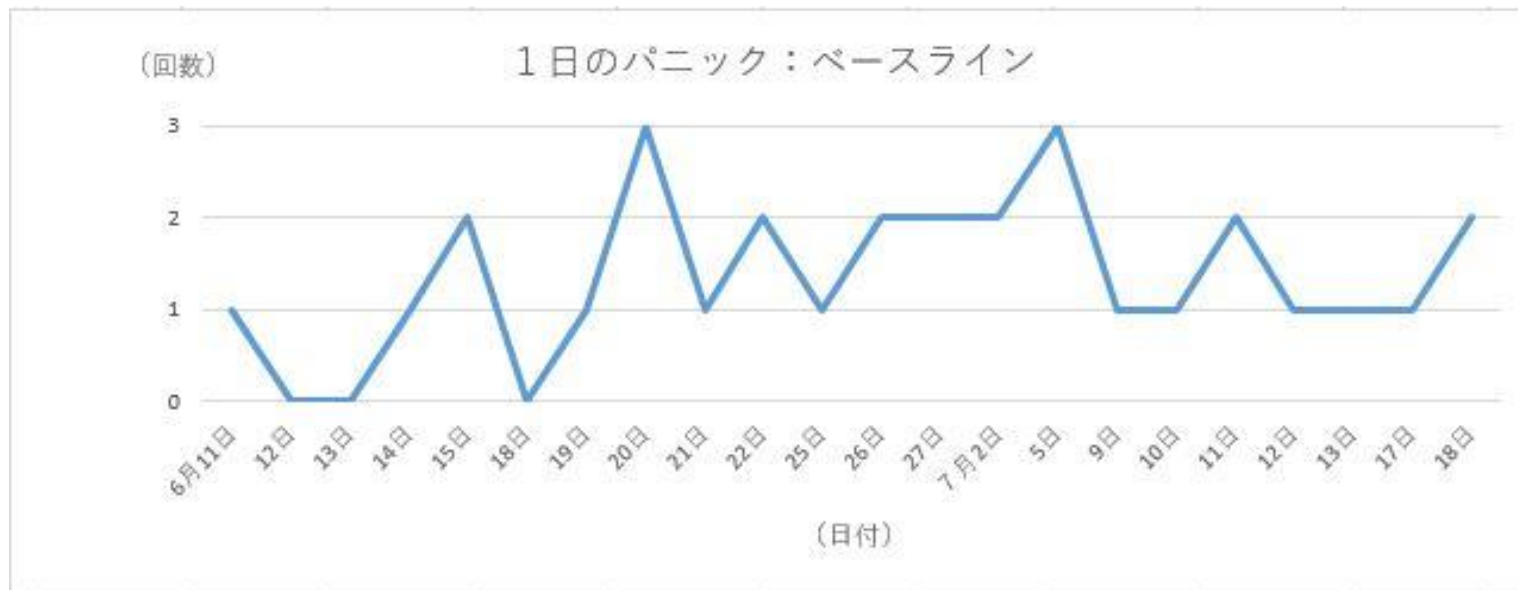
〈介入1〉シンボルで示した手伝ってくださいカードの使用



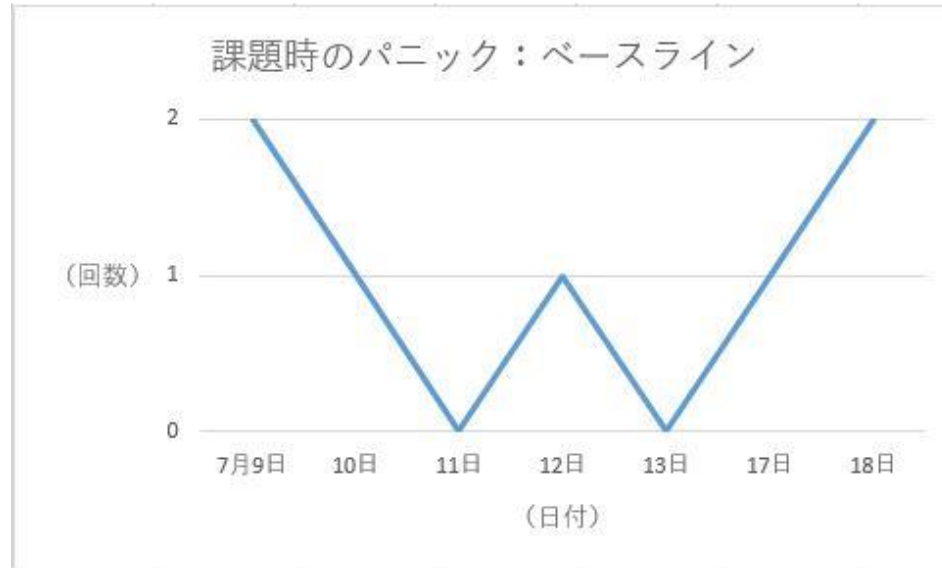
〈介入2〉写真で示した手伝ってくださいカードの使用



指導の成果



指導の成果



指導の成果

・ブックからカードを選び、教員に要求を伝えられるようになった。

→「ポータブルDVD」「おかわり」「ホーススイングをゆらしてほしい」「蓋をあける」などのほしい物や手伝ってほしいことを、離れた場所にいる教員に伝えることができるようになった。

・パニックの回数が減少した。

→課題時のパニック数は0回。1日を通してのパニックを起こす回数が減少した。



ここが成功のポイント

○カード学習は、本児にとってメリットが
多い学習だったこと。

- 欲しい物がもらえる，難しい活動を手伝ってもらえる！
- 自分の意思を他者に伝えようとする，本児の主体性が育った！

○自分の意思を伝えられるようになったこと
で，パニックを起こす必要がなくなった。

- 援助や要求をカードで伝えることができるようになった。

